



弓削高等学校

<http://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>



2年生修学旅行へ！ (関東方面)

行ってきました！

10月2日(火)～10月5日(金)の間、本校2年生が修学旅行に行ってきました。台風の進路が気になっていましたが、その影響もなく、無事に関東方面へと旅立つことができました。

東京都内自主研修、劇団四季、東京ディズニーリゾート、国立博物館、東京スカイツリーなど東京を存分に楽しんできました。



横浜中華街



東京ディズニーランド



ディナークルーズ

上島町の未来を考える！

10月1日(月)に主権者教育HR活動を行いました。18歳から選挙権を持つことになり、上島町の未来について、自分自身のこととして考えることができました。



来年度全国募集を始めるため、弓削高校は下宿先や食事の提供をしていただける方を探しています。心当たりがあるご家庭は弓削高校教頭大塚(☎77-2021)までご連絡ください。



上島町の今と未来のために

企画財政課

こんにちは。企画財政課長の杉田です。

企画財政課では、上島町の“今”と“未来”のためのまちづくりを企画・推進しています。

課長	課統括	1名
企画政策係	まちづくりの企画・推進	2名
政策推進室	重要施策の企画・推進	2名
財政係	財政計画・予算執行調整等	3名

平成29年度からは、将来に渡って上島町を存続させるべく、町内唯一の県立高校である弓削高等学校存続のための、「弓削高校魅力化プロジェクト」を開始し、公営塾を開設するなどの事業を推進しています。

また、これに併せて、進学等で町外へ出ていく子供たちに、将来、島に帰ってきていただきたいという思いで、「ゆめしま奨学金制度」を創設しました。(※制度の詳細は町HPをご覧ください)

この制度は、上島町民の皆様、上島町を応援してくださる町外の応援団の皆様の心ある寄付によって運営していくものです。

上島町の宝である子供たちのために、上島町の未来のために、本制度にご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

また、2022年には町民の悲願である「岩城橋」の完成が予定され、いよいよ「ゆめしま海道」が全線開通します。上島町は、この完成に向けた新たなまちづくりを全町をあげて考えていかなければならない時がきています。皆様のご尽力を賜りますようお願いいたします。



ゆめしま未来塾(公営塾の様子)



弓削商船高等専門学校

<http://www.yuge.ac.jp/>



商船学科32名が卒業

国立モンゴル科学技術大学へ
学生が国際交流訪問

8月22日(水)～9月3日(月)まで、本校の学生5名が国立モンゴル科学技術大学へ国際交流訪問を行いました。



この交流訪問は、平成26年度に本校と国立モンゴル科学技術大学との間で研究・教育交流協定が結ばれ、その一環として訪問したものです。

今回の訪問では、大学の実験室を見学し実験に参加するとともに、チングスハーン像テーマパークやモンゴルの民族歴史博物館なども見学し見聞を広めました。参加した5名の学生にとって国際的な視野を持った技術者として成長するための良い刺激となりました。

平成30年度商船学科卒業式を
挙行

9月24日(月)、平成30年度商船学科卒業式を挙行了しました。卒業生32名は本校を巣立ち、新たな門出の日を迎えました。

井瀬校長から「皆さんが自分の帆に風を受け、人生を切り開いていけることを祈念します」と式辞がありました。そして、来賓の上島町長及び一般社団法人全日本船舶職員協会会長より心のこもった御祝辞を頂きました。

式の終盤、卒業生総代原悠登さんによる答辞が行われた後、本校商船学科卒業式恒例のセレモニーが行われました。卒業生代表の吹笛に合わせ、卒業生一同が「ごきげんようー！」の掛け声の後、全員が帽子を高らかに投げ、多くの帽子が美しく宙を舞いました。

卒業生たちの表情は、これからの輝ける未来に期待を弾ませているかのように輝いてみえました。



島おこし協力隊活動報告

島に移住して

上島町に来てはじめて迎える秋は大型の台風からスタートしました。全国でとても災害の多い1年でしたね。ちょっと早いですが1年を振り返ってみます。1年前の私はサラリーマンで、その頃はまだ上島町に移住することも決まっていなかった。移住や就農についてどのように進めていくのが



イノシシの侵入に悩む

いいか、どんな地域で活動していきたいか、そんなことを考えていたように思います。

私は工芸が好きで、当時は週末が来るたびに生活工芸や民藝、古道具、骨董というものを見に出かけていました。ちょっとした中毒症だったかもしれません。島に来てからはそんな生活はあり得ないわけですが、それでも工芸好きは変わらず、古い街並みの中に残された美しい工芸や農具などを見るたびに心が穏やかになるのを感じます。そして、ここところは少しずつ島の暮らしにも染まってきているように思います。どういう風にかというと、まず、援農・農業研修という形で畑に入らせて頂き、秋野菜の栽培を始めました。製塩体験や稚魚の放流など島ならではの

の素晴らしい体験もしましたし、今では狩猟免許を取るための準備もしています。もちろん猪肉も食べましたし、採れたての蜂蜜も食べました。蜂にはしっかりと刺されました。このようなことは1年前の私には絶対に体験できなかったことだと思います。ようやく島の暮らし、農的暮らしの入り口に半歩ほどは立てたのかなと、図々しくもそう思っています。



島おこし協力隊
西尾諭